

第254回

荒川の人

ACC 30th ANNIVERSARY ACC30周年記念

荒川区にゆかりのある人にスポットを当てた『荒川の人』。これまで『荒川の人』で荒川の街にまつわるエピソードを披露してくださった方々は30年で総勢252名にものぼります。節目となる30周年を記念し、過去に登場した“あの人”にアンコール。

白と黒の死活。険しいプロの道を歩み続け
目の前の1局に集中して明日に向かう。

囲碁棋士 **安達利昌** さん

【プロフィール】平成3年4月15日、東京生まれ。小松英樹九段門下。小学2年時に全国少年少女囲碁大会に初出場。翌年から同大会に毎年出場し、小学6年時に5位入賞。中学1年時に全日本こども囲碁大会で優勝。その後、院生となり、平成21年に入段を果たす。平成23年二段、平成26年三段、平成28年四段、平成30年より五段。平成28年、棋道賞連勝賞（15連勝）を受賞。平成29年、第65回NHK杯テレビ囲碁トーナメントに出場。



平成12年12月号のほっとタウン「荒川の人」に登場した、囲碁の棋譜を前に、くったくなく笑う少年。今から18年前、小学3年生の時に全国少年少女囲碁大会に東京都の代表として出場し、将来が楽しみな金の卵と評された安達利昌さんは、今や27歳の青年となり、当時の期待と夢をかなえてプロ棋士として活躍しています。平成25年11月に開催された荒川区文化祭・区民囲碁大会で講師を務めたこともある荒川育ちのプロ棋士、安達さんに子どもの頃の思い出や厳しい勝負の世界など、さまざまなお話を伺いました。

保育園の頃から抜きん出た才能 全日本こども囲碁大会で優勝し、院生へ

黒と白の碁石を交互に打ってお互いに陣地をつくり、相手の石を囲んで取って自分の陣地を広げ、最終的に陣地が多い方が勝ちとなる囲碁。パッと見ただけではどちらが勝っているのかよく分からない、なんだか難しそうと、敬遠する人がいる一方、奥深い魅力を知ってすっかりハマる人もいて、安達さんのお父様がその後者でした。礼儀の習得や頭のトレーニングとして囲碁に親しみ、将来はプロになって欲しいという願いを幼い頃から安達さんに抱いていたそうです。

「僕は三人兄弟の末っ子で、父方の祖父が囲碁好きだったため父親もかなりの腕前で、兄やその同級生に教えていたのですが、それを見ていた僕が囲碁の打ち方を覚えてしまったと母から聞いています。当時は保育園の年長くらい。兄が文京区の白山囲碁倶楽部の子供教室に通っていたので、僕も一緒に通うようになりました。教室が終わるとお菓子がもらえるらしいと聞いて、それが目当てだったみたいです（笑）」

三河島からバスに乗って白山へ、週3回の囲碁教室で安達さんはメキメキと腕を上げ、全国でもレベルの高い都大会を勝ち上がって小学2年生から連続で「全国少年少女囲碁大会・小学生の部」に出場します。小学4年生

からは数々のプロ棋士やアマ強豪を輩出した東中野の緑星囲碁学園で鍛えられ、小学6年生で5位に入賞。そして、荒川区立諏訪台中学校に入学した4月、全日本こども囲碁大会で優勝という栄誉を勝ち取ります。その後、日本棋院の院生となり、本格的にプロ棋士への道を歩みはじめるのです。

17歳でプロ棋士のスタートラインに よく食べよく動き、よく学ぶ日々

JR市ヶ谷駅の近くにある囲碁の日本棋院。プロを目指して安達さんがその院生となったのは13歳のとき。それから4年後、17歳でプロの仲間入りを果たします。

「院生からプロになれるのは、その年の上位3名だけです。プロになった年の成績はずっと良かったので、これは1位でなれる、と思ったら負け続け、もう無理かなと思ってから残りを勝って、最後は3位争いでした。僕の世代は『ヒカルの碁』※の影響もあって、院生の数が多かった。当時のことは良く覚えていないのですが、打っているときはすごく緊張していたと思います。プロになって父も母もすごく喜んでくれました。自分としては、これでやっとスタートラインに立てたという思いでした」

プロ棋士の生活は対局（試合）を中心に1週間が回っていくそうです。

「対局は毎週木曜に行われます。僕は火曜と金曜に日本棋院の部屋を借りて行われる勉強会に参加して、それ以外の日は白山にある白山囲碁倶楽部に行って碁盤を借りて棋譜を並べたり、家でネット碁を打ったりして勉強しています。対局以外はずっと練習日になるので、意識して月曜を休みにしていますが、トーナメントを勝ち抜いていくと月曜に対局が入ることもあります」

1試合に6～8時間ほどの対局中はとてもお腹がすき、朝、昼、おやつ、夕食をがっつり食べないとたないと言います。対局を終えると数キロ体重が減る棋士もいるほどで、長時間の集中で消耗するのです。安達さんは今

年からジムに通い始め、日本棋院では野球部に所属して、体力アップを図っているとか。座ってばかりでは身体に良くないから、意識して身体を動かすのだそうです。

プロになってもうすぐ10年、好調なときほど 心身を引き締めて勝負に向かう

とにかく勝ち上がっていかないと次がない、という厳しい世界。

「負けたときは自分のミスが原因です。打ったときは分からないんですが、不思議なことに石から指が離れた瞬間にミスが分かる。あ、悪い手だ、と。対局中に勝ちを意識すると、なんとというか、脳がゆるんでしまう。そうならないように、有利なときほど神経を使います。まだまだ、まだ勝っていないと集中を続けて、どれだけ間違えないかがすごく重要です」

一昨年には15連勝で賞を獲得。昨年は日本棋院の限られた人数しか参加できないNHK杯テレビ囲碁トーナメントに出場。また、第42期棋聖戦の挑戦者を決める、棋聖Cリーグにて師匠の小松英樹九段との師弟対決で勝ちを収めました。

プロになってもうすぐ10年、そろそろタイトルを取りたい、でもその前に目の前の一局を頑張りたいと言う安達さん。実力にさらに磨きがかかり、今年はいっそうの期待が高まっています。

※「ヒカルの碁」は「週刊少年ジャンプ」で、平成11年から平成15年にかけて連載された囲碁マンガ。少年が囲碁の世界で成長していく物語で、囲碁ブームを巻き起こしました。



今回は小学3年生で東京都代表として全国少年少女囲碁大会に出場した18年前(平成12年12月号)に登場。

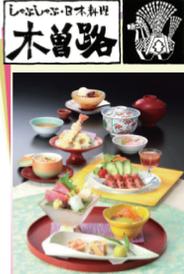


朝日。地元応援団

チーム朝日が
全力で応援します!!

街の鼓動に敏感です
朝日信用金庫

荒川支店 TEL.03(3895)3011 東尾久支店 TEL.03(3895)2222
西尾久支店 TEL.03(3810)0111 荒川南支店 TEL.03(3807)8711



お昼の集い
7月13日(金)～9月3日(月)まで
ご予約承っております。
良い日のお席をお早めにご予約くださいませ。

奈良井 倉らい

盛り込み(前菜・お造り・煮物)、和中華あみ焼き、茶碗蒸し、揚げ、御飯、汁物、香の物、デザート

3,000円(税込3,240円)

宴会込々

コース

- ◆5,000円国産牛宴会込々コース
先付、お造り(はちまき、しんじゆん、肉120g・野菜類)、御飯、香の物、デザート
飲み放題付 国産牛コース内 120g 5,000円
- ◆6,000円国産牛宴会込々コース
先付、お造り(はちまき、しんじゆん、肉130g・野菜類)、御飯、香の物、デザート
飲み放題付 国産牛コース内 150g 6,000円
- ◆7,000円和牛宴会込々コース
先付、お造り(はちまき、御飯、茶碗蒸し、しんじゆん、肉120g・野菜類)、御飯、香の物、デザート
飲み放題付 和牛コース内 120g 7,000円

※写真は5,000円コースで、3人用のイメージです。
■消費税・サービス料込み
■10名様より承ります。
■ご予約にて承ります。

ご宴会ご予約承ります。

※無料送迎バスをご用意いたします。※ご予算ご相談ください。



木曾路南千住店
荒川区南千住 5-6-15
電話：03-5850-5567

グラスドリンク人数分プレゼント

- 2,160円以上の料理をご注文に限りです。
- グラスドリンクを人数分プレゼントいたします。
- 他券との併用はできません。
- ご飲食前にお席にお渡しください。
- H30年8月31日まで有効
- 木曾路南千住店のみ有効